

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

概要



目的

人間文化に関する総合的研究と世界的拠点の形成

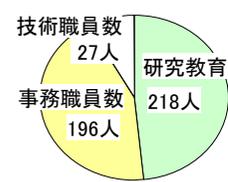
所在地

東京都港区

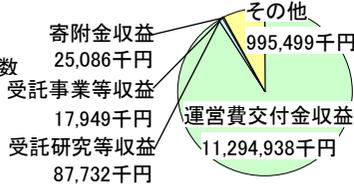
設置

H16.4.1

職員数 (H22.5.1現在)



決算額



共同研究者の受入れ状況

	計	国立大学等	大学共同利用機関	公立大学	私立大学	公的機関	民間機関	外国機関	その他
研究者(人)	3,745	1,109	810	135	856	224	106	359	146
機関数	783	75	3	45	227	128	84	203	18

公募型共同研究採択件数

15件

関連学会数

481件 (うち、91学会に役員在籍者)

締結している学術交流協定

81件

- ・英国芸術・人文リサーチカウンシル、フランス高等研究所 等

人間文化研究機構の理念

人間文化研究機構は、人文学ないしは人間サイドの視角を軸とする6つの大学共同利用機関で構成されている。人文学の研究は、個々の研究者の個人の発想による深い思索と、その結果もたらされる多様な知的成果の統合を不可欠とするが、大学共同利用機関はそれぞれの分野におけるCOEとして資料を収集し、共同利用に供すとともに、議論の場となる共同研究プロジェクトを運営し、統合の方向性への場を提供する。

研究者コミュニティの中核拠点としての機構の活動



連携研究

各機関が培ってきた研究基盤と成果を有機的に結合させ、さらに高次なものに発展させる研究を実施。

- ・日本とユーラシアの交流に関する総合的研究
- ・文化資源の高度活用

研究資源共有化システム

- ・統合検索システム
各機関が所有するデータベースの一括検索が可能なシステム。
- ・GT-Map/GT-Timeシステム
時間と空間の指標を利用した分析システム。
- ・nihuONEシステム
研究者・パソコンの表計算ソフトウェアなどで作成したデータベースを自らの操作により公開できるシステム。

地域研究

わが国にとって学術的、社会的に重要な意義を有する地域について、関係大学・機関と研究拠点を共同設置し、拠点間のネットワークを構築して、研究を実施。

- ・イスラーム地域研究
- ・現代中国地域研究
- ・現代インド地域研究



今後の展望

6つの研究機関の研究活動と連携を促進し、人間文化研究の深化と、新たな領域の創出・展開に取り組む。文化の統合的学術研究の世界的拠点として、社会に広く貢献することをめざす。

人間文化研究機構を構成する大学共同利用機関

国立歴史民俗博物館



館蔵資料：江戸図屏風

◆目的

我が国の歴史資料、考古資料及び民俗資料の収集、保管及び公衆への供覧並びに歴史学、考古学及び民俗学に関する調査研究

◆所在地

千葉県佐倉市

《中核拠点としての活動》

- 日本の歴史と文化に関する分野において、以下を推進
 - ・多様な研究資源を収集・整理・保存
 - ・国内外の研究者を結集した共同研究の実施
 - ・全時代にわたる日本の歴史と文化の唯一の博物館

《代表的な共同利用・共同研究》

- 基盤研究：12課題
「歴史資料に対する自然科学的調査法の開発と適用に関する研究」など
- 基幹研究：11課題
「農耕社会の成立と展開」など
- 日本の歴史と文化に関する総合展示

国文学研究資料館



館蔵資料：源氏物語団扇画帖「夕顔巻」

◆目的

国文学に関する文献その他の資料の調査研究、収集、整理及び保存

◆所在地

東京都立川市

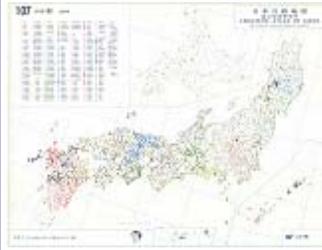
《中核拠点としての活動》

- 日本文学研究の中核拠点として、以下を推進
 - ・国内外に所蔵される日本文学及び関連資料の調査・研究及び収集・提供
 - ・国内外の研究者と連携して、先進的な共同研究を推進
 - ・日本文学及び関連領域に関する研究情報の発信

《代表的な共同利用・共同研究》

- 各地の大学教員等の協力による全国の版本、写本などの文献資料の調査研究と、研究利用への提供
- 「学芸書としての中世類題集の研究」
- 「近世文芸の表現方法〈見立て・やつし〉の総合研究」
- 『藩政アーカイブズの研究』

国立国語研究所



『日本言語地図』『ほほ(頬)』を表す言葉の分布

◆目的

国語及び国民の言語生活並びに外国人に対する日本語教育に関する科学的な調査研究並びにこれに基づく資料の作成及び公表

◆所在地

東京都立川市

《中核拠点としての活動》

- 日本語学・言語学・日本語教育研究における中核拠点として国内外の研究機関と大規模な理論的・実証的共同研究を展開

《代表的な共同利用・共同研究》

- 日本語レキシコン(語彙)に関する理論・実証研究
- 日本語の消滅危機方言・方言の形成過程の解明・社会的変異に関する研究
- 現代語及び歴史コーパスの構築と応用に関する研究
- 世界諸言語との比較による日本語の特質の解明
- 多文化共生社会における第二言語としての日本語の教育・学習に関する実証的研究

国際日本文化研究センター



国際研究集会の様子

◆目的

日本文化の国際的・学際的・総合的研究並びに世界の日本研究者に対する研究協力による日本研究の推進

◆所在地

京都府京都市

《中核拠点としての活動》

- 日本研究における国際学術交流と共同研究の中核拠点として、以下を推進
 - ・海外の日本研究者への支援・協力
 - ・国際的な研究環境の提供

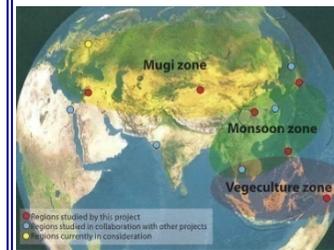
《代表的な共同利用・共同研究》

- 「日本における翻訳の文化史」：翻訳というプロセスの文化的意義の研究(国外公募共同研究分)
共同研究者数：20名
- 貴重書データベース：66タイトル
年間アクセス7,147件



モンタヌス著「日本誌」日本を著述した初期の図書の研究用データベース

総合地球環境学研究所



世界に広がる地球研の調査地域

◆目的

地球環境学に関する総合的研究

◆所在地

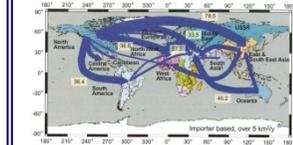
京都府京都市

《中核拠点としての活動》

- 地球環境問題の解決に向けた地球環境学という新たな学問創出のため、人文社会科学系、自然科学系を統合した共同研究を、国内外の大学等の研究機関と連携して実施

《代表的な共同利用・共同研究》

- 「地球規模の水循環変動ならびに世界の水問題の実態と将来展望」



世界における仮想的な水収支(バーチャルウォーター)

- 最先端設備である安定同位体分析装置を、33大学、6行政機関、計111名が利用

国立民族学博物館



みんなくウィークエンドサロン
「世界の太鼓—音楽展示
新構築に向けて」

◆目的

文化人類学・民族学に関する総合的研究

◆所在地

大阪府吹田市

《中核拠点としての活動》

- 我が国における文化人類学(民族学)研究の中核拠点として、以下を推進
 - ・国内外の関連する研究者等が施設と資料を利用
 - ・館内外の研究者による共同研究等を展開
 - ・博物館機能による成果還元等

《代表的な共同利用・共同研究》

- 機関研究
 - ・「包摂と自律の人間学」
 - ・「マテリアリティの人間学」
- 共同研究
 - ・民俗資料保存論の構築と素材に応じた保存処理法の開発
 - ・捕鯨文化に関する実践人類学的研究
 - ・南アジアにおける都市の人類学的研究